

研究雑話 (29)

フランスの障害者教育・福祉事情(十三) 諸結果(二)、戸外でできることを室内ではならぬ。

藤井力夫

学校という場で自分のもてる力をどのよう発揮しているか。今回はスナップ・リーディングの方法についてお話ししました。フランスはボーベ養護学校、日本は札幌のH養護学校。対象児は動作テンポからみて各クラスの中庸に位置する子どもたち。今回は、「戸外でできることを室内でしてはならない」、この問題を考えていただくために図表を多くした。図Aは活動空間、図Bは活動姿勢の日仏比較。AからCの子どもはボーベ養護学校のクラスA、小学校での付設学級B、及び年少のクラスEに所属する平均的な子ども。これに対しDからFが日本の子どもでH養護学校中学部三年、小学部六年、二年の各一組に所属する子ども。一九八五(仏)、一九八六(日)の各十一月、一週間の活動を五分毎にスナップ・リーディングした。通学生もいるので、集計では寄宿舎の活動は除いた。図Cは、日本の養護学校中学部三年D君のある一日、朝八時から夜八時までの活動空間(G)と活動姿勢(H)の記録。教室(a)、廊下(b)、他教室(c)、戸外(e)の各場所、及び活動姿勢の五分毎の軌跡。この日は登校から下校まで自教室(四六%)と廊下等(一六%)の教室関係が六二%、体育館が三五%、戸外は移動時の三%のみ。十四歳といえたどたどしい日常表現がやっとなの子ども。それゆえ廊下での散策が多いのもうなずける。なのに日中のほとんどを室内で

過ごす。ボーベと札幌、ほど同じ気候と想像していただいてよい。他方は、晩秋の森への自然散策、町の温水プールでの泳ぎ、校庭やバンクでの自転車乗り、あるいは校庭でのサッカーのボール蹴り等。

(北海道教育大学教授)

図 A. 活動空間 (クラスの中庸に位置する児童生徒の学校生活一週間における割合)

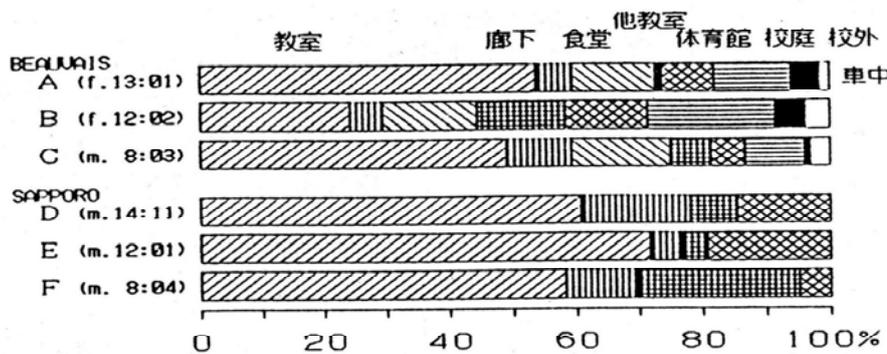


図 B. 活動姿勢 (クラスの中庸に位置する児童生徒の学校生活一週間における割合)

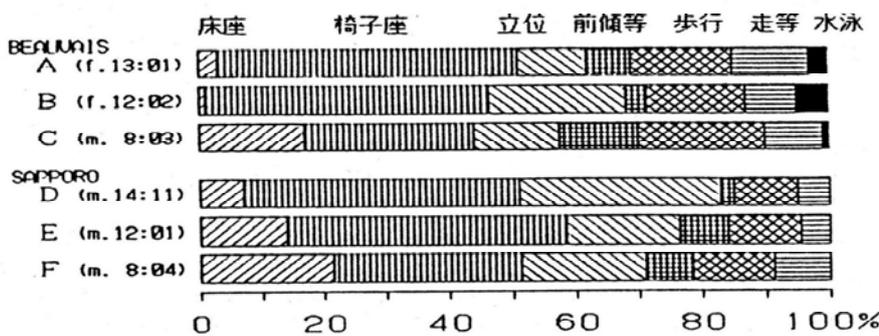


図 C. D. S (m 14. 11 yrs old) 1986. 12. 4 (木) sapporo H. 養護学校

